

## 解 答

1 (D)	2 (B)	3 (B)	4 (C)	5 (D)	6 (B)
7 (D)	8 (D)	9 (C)	10 (D)	11 (B)	12 (A)
13 (A)	14 (B)	15 (B)	16 (C)	17 (B)	18 (C)
19 (A)	20 (D)				

1. 「ディビッドは私の腕をつかんで、行かせてくれなかった」

▶ hold one by the arm で「人の腕をつかむ」という意味。(D)が正解。

□ catch[take/hold/grasp] A by the arm 「A の腕をつかむ」

A policeman caught me by the arm.

(警察官が私の腕をつかんだ。)

#### catch A by the arm タイプの表現

この表現は前置詞によって 3 つのタイプに分けられる。

(1) □ catch[take/hold/grasp] A by the arm 「A の腕をつかむ」

□ pull A by the sleeve 「A の袖を引く」

(2) □ strike[hit] A on the head 「A の頭をなぐる」

□ pat[tap] A on the shoulder 「A の肩を(軽く)たたく」

□ kiss A on the cheek 「A の頬にキスをする」

(3) □ look[stare] A in the face[eye(s)] 「A の顔[目]をじっと見る」

2. 「マークは試験に遅れた。もっと早い列車に乗ってさえいたら、間に合って到着しただろうに」

▶ 第 2 文は if only で始まる仮定法過去完了の文である。過去の事柄を推量して「～だったろうに」というには、〈過去形助動詞 + have + 過去分詞〉の形を用いる。

□ If only+仮定法! 「～ならよいのに[よかったのに](と思う)」

▶ if 節だけで独立的に用いられることが多く、現在の事実と反対の『願望』を表す。If only = I wish と考えればよい。

If only I had left the office ten minutes earlier!

(あと 10 分早く事務所を出ていればよかったのに。)

3. 「最近では、私の知り合いのほぼ全員がスマートフォンを使っている」

▶ most people という形はない。most of (the) people とすれば正しい。(C)the majority と(D)many people は複数扱いをするので, is using に合わない。

#### almost副と most副・名の使い分け

□ almost all A = most A 「(限定されない)ほとんどの A」

□ almost all (of) the [one's] A

= most of the [one's] A 「(限定された特定の)A のほとんど」

「ほとんどすべての学生」

almost all students (×almost students [almost には形容詞の用法なし])

= most students (×most all students/most student [単数不可])

「その学生たちのほとんど」

almost all (of) the students (×almost of the students [名詞の用法なし])

= most of the students (×most of students [the が必要])

4. 「パーティで全員分のケーキがないので、そのかわりにクッキーを食べなければならない人も出るだろう」

▶ (A)then「その時、それから」, (B)anyway「いずれにせよ」, (C)instead「代わりに、そうはしないで」, (D)though「[文中・文末で]でも、けれど」。文意より(C)が最も最適である。

□ instead副 「代わりに、そうはしないで」

[例] I didn't let her go to the concert. I bought her a CD instead.

(彼女をコンサートへ行かせずに、その代わりに CD を買ってやった。)

5. 「大方の人が学校で学んだアメリカ英語とイギリス英語との間には一部違いがある」  
 ▶ ( )の後ろに learned の目的語が欠けているので、関係代名詞(D)which が正解。
6. 「これらの MP3 ファイルの音質は完璧ではないにしても、それほど悪くはない」  
 ▶ perfect と not that bad が対比されているので、(B)while が正解。(A)however「しかししながら」, (C)despite「～にもかかわらず」, (D)even「～でさえ」。  
 ▶ ... not that bad の that「それほど、そんなに」は副詞で、前述の具体的な数量・程度をさし、形容詞・副詞を修飾する。

#### while の用法

(1) 『時』の while 「～する間/～している間」

*John came to see you while you were out.*

(あなたが外出している間にジョンがあなたを訪ねて来ました。)

(2) 『対比』の while 「～なのに対して/～である一方」 (= whereas)

*Digital images can be viewed almost immediately, while films take much longer to develop.*

(デジタル画像はほとんど瞬時に見ることができるが、一方フィルムは現像するのにずっと長い時間がかかる。)

(3) 『譲歩』の while 「～だけれども/～なのに」 (= although/though)

*While I want to believe it, I cannot.*

(私はそれを信じたいが、信じられない。)

7. 「日本で消費されるりんごの多くは長野県産である」

▶ 「日本で消費されるりんご」は関係代名詞を使えば、apples which are consumed in Japan となる。過去分詞の後置修飾として理解すれば、apples consumed in Japan となる。

many of+the 複数名詞 [of+複数代名詞] 「(…のうちの)多くのもの[人]」

*many of the books I've read* (私がこれまで読んだ本の多く)

8. 「ミュージカル『レ・ミゼラブル』は 1990 年以来ブロードウェイで上演されている」

▶ 演劇は「上演される」という受動の関係なので、受動態で表す。しかも, since 1990 があるので現在完了形が必要。つまり、現在完了の受動態 (have been + 過去分詞) の(D)has been performed が正解。

9. 「台風で引き起こされた被害にもかかわらず、列車は依然として走っている」

▶ the damage caused by the typhoon は句(文 SV の形にならないもの)なので、(C)in spite of ~「～にもかかわらず」か(D)because of ~「～の原因で」しか使えない。被害を受けた列車が今も運行しているのであるから、譲歩を表す(C)が正解。

in spite of ~「～にもかかわらず」 (= despite ~/for all ~)

*In spite of the rain, many people showed up for the outdoor concert.*

(雨にもかかわらず、多くの人が野外コンサートにやって来た。)

#### 『譲歩』を表す群前置詞

in spite of ~「～にもかかわらず」 (= despite ~)

▶ in spite of oneself 「思わず/われ知らず」も重要。

for all ~「～にもかかわらず」 (= in spite of ~)

*For all our efforts, the plan ended in failure.*

(私たちの努力にもかかわらず、その計画は失敗に終わった。)

with all ~「～にもかかわらず[譲歩](= for all ~)/～があるので[理由]」

*His friends like him with all his faults. [譲歩]*

(彼の友人たちは、彼の欠点にもかかわらず彼が好きだ。)

regardless of ~「～にかかわらず/～にかまわず」 (= in spite of ~)

10. 「ナオミが商売で成功したのは、努力というよりもむしろ運のおかげだ」

▶ (A)not all「すべてが～というわけではない(部分否定)」, (C)は not only A but

(also) B で「A だけでなく B もまた」, (D)は not so much A as[but] B「A というよりはむしろ B」。カンマ(,)の次の but につながるのは(C), (D)であるが, more by luck は, 「努力によるよりも(むしろ)多くの運による」という文意であるから, (D)が適当である。

□ **not so much A as[but] B** 「A というよりはむしろ B」 (= B rather than A)

▶ rather than で書き換えると, A と B が逆になることに注意。

She is not so much an actress as a singer.

= She is a singer rather than an actress.

(彼女は女優というよりは歌手である。)

11. 「明日遅くまで働くという条件なら、今日は早く仕事をやめてよい」

▶ (A)situation「状況」, (B)condition「状態, 条件」, (C)requirement「要求される事[物]」, (D)promise「約束, 契約」。on condition (that) ~で「～という条件で」という意味。

□ **on condition (that) ~ 「～という条件で/もし～ならば」**

You can leave early today on condition that you stay longer tomorrow.

(明日もっと長くいてくれるなら、今日は早く帰ってもかまいません。)

12. 「エレンは私に彼女の家のパーティに来るよう言ったが、招待を辞退せざるを得なかった。ちょうど今、ひどく忙しいのだ」

▶ (A)decline「(申し出などを丁重に)断る, 辞退する」, (B)deny は要求などを「拒絶する」の意味をもつ強い表現である。(C)excuse「～を許す」, (D)regret「～を後悔する」。目的語が invitation「招待」であることを考えると(A)が適当。

13. 「タカノリは商店やレストランに行きやすいアパートを借りたいと思っている」

▶ (A)access「(場所への)接近方法」, (B)entrance「入れること」, (C)reach「届く範囲」, (D)transport「輸送, 運送」。文意より(A)が最適である。

□ **have easy access to ~ 「～に行きやすい」**

14. 「ジムは長旅の後で疲れている。彼には回復する時間が若干必要である」

▶ 疲れているのだから、「(体力を)回復する時間」が必要なのである。regain には自動詞の用法はないので使えない。したがって, (B)recover「回復する」が正解。a little time to recover 「少しの回復する時間」。

▶ (A)regain「～を取り戻す」, (C)relieve「～を取り除く」, (D)reform「～を改善する」。

15. 「私の姉が国際大学の入試に合格したことで、私はもっと熱心に勉強するよう鼓舞された」

▶ (A)appeal「～することを懇願する」, (B)inspire「～を鼓舞する」, (C)acquire「～を獲得する」, (D)desire「～を強く望む」。SVO to do の形をとるのは(B)inspire A to do 「A が～するように鼓舞する」と, (D)desire A to do「A に～してほしいと願う」であるが, 文意より(C)が適当である。

□ **appeal to A to do 「A(人)に～することを懇願する」**

I appeal to you to contribute to the new clinic.

(新しい診療所に寄付をお願いいたします。)

□ **inspire A to do 「A(人)が～するように鼓舞する」**

What inspired you to write your songs?

(作曲意欲をかき立てたものは何だったんですか。)

□ **desire A to do 「A(人)に～してほしいと願う[言う]」**

Her Majesty desires them to abandon the plan.

(女王陛下には彼らにその計画を中止してほしいとの思し召しです。)

16. 「政府の新政策に反対する大きなデモがマドリッドで計画されつつある」

▶ 「政府の新政策に反対する」に適合するのは, (C)demonstration「デモ, 示威運動」である。(A)protection「保護」, (B)formation「構成, 形態」, (D)situation「事態, 立場」。

17. 「タツヤは卒論の提出を来週まで延期してしまった」

- ▶ (A)take off「～を脱ぐ」, (B)put off「～を延期する」, (C)turn off「(明かりなど)を消す」, (D)set off「出発する」の中で, 「卒論の提出」を目的語にできるのは(B)である。

□ **put off** ~ 「～を延期する」 (= **postpone** ~)

You should not *put off* answering the letter.

(あなたはその手紙の返事を書くのを延ばすべきではない。)

▶ **put off doing**[<sup>X</sup>*to do*] 「～するのを延期する」 (= **postpone doing**)

18. 「スミス氏は彼の会社の製品の品質に関する大衆の懸念はどう対処するかで途方にくれていた」

- ▶ (A)apply「～を応用する」, (B)convince「～に納得させる」, (C)address「～に対処する/～に演説する」, (D)ensure「～を保証する」の中で, 「大衆の懸念」を目的語にできるのは(C)である。

□ **at a loss** 「途方にくれて/困って」 (= *at one's wit's[wits'] end*)

We were *at a loss* where to go.

(私たちはどこに行ったらいいのか途方にくれた。)

□ **as to** ~ 「～について」 (= **about**)

▶ as to ~は, wh 節・句が続く場合に用いられることが多い。それ以外はふつう about/on を用いるほうが一般的。

He was uncertain *as to* what should be done next.

(彼は次に何をすべきかわからなかった。)

□ **regarding** ~ 「～に関して/～について」

*Regarding* payment, please send us a check.

(お支払いには、小切手をお送りください。)

19. 「長期にわたって発展した後で、その集団は解散することに決めた」

- ▶ (A)disband「解散する」, (B)suspend「～をつるす」, (C)postpone「～を延期する」, (D)emerge「出現する」の中で、自動詞は(A)か(D)であるが, (D)では文意が成り立たない。

□ **decide to do** 「～することに決める」 (= *make up one's mind to do*)

▶ decide は不定詞だけを目的語にとる動詞として頻出。

▶ decide on ~ 「～に決める」 /decide on *doing* 「～することに決める」

He *decided to postpone* his departure.

= He decided on *postponing* his departure.

(彼は出発を延期することに決めた。)

20. 「ユウコの家まで行く指示に注意深く従いなさい。なぜならば、彼女の家は見逃しやすいからだ」

- ▶ (A)ignore「～を無視する」, (B)avoid「～を避ける」, (C)lose「～を失う」, (D)miss「～を見逃す」の中で「彼女の場所」を目的語にできるのは(D)である。one's place 「～の家」

□ **A is + 形容詞 + to do** 「A は～するのに…だ」 —— 『形容詞の意味の限定』

This question is more difficult *to answer* than that one.

(この質問はその質問よりも答えにくい。)

▶ この構文では、主語 A が不定詞の意味上の目的語になる。

一般に形式主語 it を用いた書き換えが可能である。

⇒ **It is** more difficult **to answer** this question than that one.

▶ 難易・危険・安全・(不)快などを表す形容詞がこの構文で使われる。

easy/difficult/hard「難しい」/impossible/dangerous/safe/pleasant「快い」/comfortable「心地よい」など。

He is **easy** to persuade. (彼は説得しやすい。)

This lake is **dangerous** to swim in. (この湖は泳ぐには危険です。)